

浦添城の前の碑

石畳道を整備した時の竣工記念碑です。



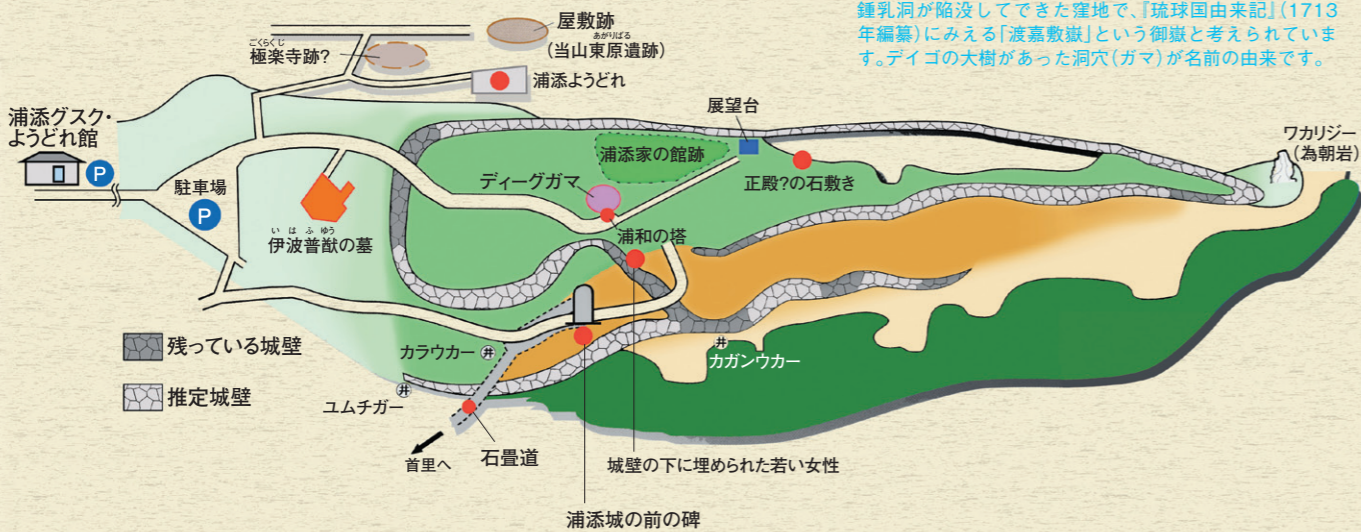
石畳道

浦添家出身の尚寧王が、1597年に整備しました。浦添グスクから首里へ向かう道です。



ディーグガマ

鍾乳洞が陥没してできた窪地で、『琉球国由来記』(1713年編纂)にみえる「波嘉敷嶽」という御嶽と考えられています。デイゴの大樹があった洞穴(ガマ)が名前の由来です。



琉球国中山王城 浦添グスク

浦添グスクの歴史

13世紀に築かれた浦添グスクは、14世紀に高麗系瓦ぶきの正殿を中心に、石積み城壁で囲まれた大規模なグスクとなりました。その周辺には、王陵・寺院・大きな池・屋敷・集落などがあり、後の王都・首里の原型ができあがっていたようです。

王宮が首里に移った後、尚真王の長男・尚維衡が浦添グスクに居住しました(浦添家)。その後、1609年の薩摩藩の琉球侵攻により、浦添グスクは焼き討ちにあいました。



沖縄学の父・伊波普猷の墓

伊波普猷(1876~1947)は歴史学、民俗学や言語学などによる沖縄の総合研究である沖縄学の父といわれています。

伊波の論文「浦添考」により、浦添が首里以前の琉球王国中山の中心であったことが明らかにされました。



浦和の塔

1945年の沖縄戦では、日米両軍の兵士だけでなく多くの住民も戦闘に巻き込まれ亡くなりました。慰霊と平和を願って1952年に建てられました。

NPO法人 うらそい歴史ガイド友の会

浦添グスク・ようどれ館内
【場所】浦添市仲間2-53-1
【電話】098-874-9345

琉球王朝発祥の地といわれる浦添市には、貴重な王朝時代の史跡が数多く残ると同時に、沖縄戦の戦跡もあります。うらそい歴史ガイドでは、王朝文化の香り漂う赴きのある遺跡や、哀しい記憶をたどっていく戦跡案内をしています。主なコースは浦添城跡(うらそえじょうあと)、浦添ようどれ、普天満参詣道、浦添貝塚などです。コースや日程、時間はガイドと相談して決めることができます。



浦添グスク・ようどれ館

【場所】浦添市仲間2-53-1
【開館時間】午前9時~午後5時
【入館料】大人(高校生以上)100円
 小人(小・中学生)50円
【休館日】月曜日・
 12月28日~1月3日
【電話】098-874-9345
【アクセス】琉球バス交通
 牧港線(55番)
 仲間バス停から徒歩5分

古写真や発掘調査成果のパネル、出土遺物などから、浦添グスクと浦添ようどれの歴史が分かりやすく学べます。実物大で再現された浦添ようどれの西室(英祖王陵)は必見です!

